

日本の家族

動画リンク：https://youtu.be/n-6h2q9_IFc

今回は「日本の家族」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立てください。

■自己紹介

私は「中村しんじ」といいます。40代の日本人男性です。出身は名古屋で、今は東京で暮らしています。

私が子どものころは、家族6人で住んでいました。父と母、祖母、兄、妹、そして私です。にぎやかな家庭でした。祖母はとてもやさしくて、よく昔の話をしてくれました。兄はしっかりしていて、私はよく助けてもらいました。妹は明るくて、家の中がいつも元気な雰囲気でした。

父は外で働いていて、母は家のことをしていました。母は料理が上手で、夕飯はいつも家族全員で食べていました。今思い出しても、家族との時間はとても大切だったと思います。

私は今、妻と二人の子どもと一しょに暮らしています。子どもは小学生です。家族の人数は少なくなりましたが、毎日にぎやかで、楽しく過ごしています。

子どものころの家族と、今の自分の家族は、形がちがいます。でも、どちらも私にとって大切な思い出です。昔の家族の生活を知っているからこそ、今の家族のかたちについて考えることができます。

これから、昔の日本の家族や、今の家族のちがいについて、私の経験をまじえながら話していきます。

■昔の日本の家族ってどんな感じ？

昔の日本では、三世代の家族が一しょに住むことが多くありました。三世代とは、おじいさん・おばあさん、父と母、そして子どものことです。ひとつの家に、たくさんの家族が集まっていたらしていました。

そのころの家族には、はっきりした役割がありました。父は会社で働き、お金を稼ぐのが仕事でした。母は家の中のことをして、料理や掃除、子どもの世話をしていました。家族の中で、男の人と女の人のが分かれていたのです。

また、子どもの数も今より多かったです。3人や4人の兄弟がいる家も、ふつうにありました。にぎやかで、家の中もせまく感じる事があったと思います。でも、家族が多いぶん、さみしさは少なかったかもしれません。

昔の家族では、年上の人の言うことをしっかり聞くことが大切にされていました。おじいさんやおばあさんの言葉には、経験や知識があると考えられていたからです。子どもは、目上の人（自分より年や立場が上の人）に「はい」と言って、従うことがあたりまえでした。

今とちがって、昔はまわりの人とも強いつながりがありました。たとえば、となりの家の人が、子どもを見てくれたり、ごはんをいっしょに食べたりすることもありました。

このように、昔の日本の家族は、大人数で生活しながら、年上を大切にして、家族全体で助け合う文化がありました。家族の絆が強かった時代だったと思います。

■現代の家族のかたち

今の日本では、家族のかたちが昔と大きく変わってきました。今は「核家族」とよばれる、小さい家族が多くなっています。核家族とは、親と子どもだけで生活している家族のことです。おじいさんやおばあさんといっしょに住む人は、少なくなってきました。

また、子どもがひとりだけの家族もふえています。兄弟がいないので、子どもはひとりで遊ぶことが多くなっています。にぎやかさは少なくなったかもしれませんが、子どもにたっぷり時間をかける親も多いです。

今の日本では、夫と妻がどちらも働いている家庭がふつうになってきました。昔は、夫が働いて、妻は家のことをするのがあたりまえでした。でも今は、妻も会社で働く人が多くなりました。共働きという言葉であらわされます。

私の妻も正社員として働いています。子どもが生まれたときには、会社の産休や育休といった制度を利用して、仕事をやめることなく、今も働きつづけています。

産休は、赤ちゃんを生む前と生んだ後に、お母さんが会社を休める期間のことです。

育休は、赤ちゃんが生まれたあとに、子どもを育てるために会社を休める制度です。お父さんも使うことができます。

こうした制度^{せいど}があることで、安心して^{あんしん}子育て^{こそだ}と仕事^{しごと}の両方^{りょうほう}を続ける^{つづ}ことができます。
共働き^{ともばたら}の家庭^{かてい}は年々^{ねんねん}増えています。たとえば、2001年から2021年の20年間で、
その数は約1.5倍^{ばい}になりました。今では、夫婦^{ふうふう}がいる家庭^{かてい}のうち、およそ7割^{わり}が共働き
になっています。

そのため、家事^{かじ}や子育て^{こそだ}を夫婦^{ふうふう}で分ける^わ考え方も広^{かんが}がっています。家事^{かじ}とは、料理^{りょうり}や掃除^{そうじ}、
洗濯^{せんたく}など、毎日^{まいにち}の生活^{せいかつ}に必要な仕事^{しごと}のことです。子育て^{こそだ}とは、子どもを育てることや、学
校^{こう}の行事^{ぎょうじ}に参加^{さんか}することなどもふくまれます。

昔^{むかし}は、父親^{ちち}が学校^{がっこう}の行事^{ぎょうじ}に行くことは、あまりありませんでした。私^{わたし}が子ども^このころも、
父^{ちち}が授業参観^{じゅぎょうさんかん}に来ることはありませんでした。でも、今は違います。授業参観^{じゅぎょうさんかん}や学校^{がっこう}での
奉仕活動^{ほうし}に、父親^{ちち}もたくさん参加^{さんか}するようになっています。

このように、男性^{だんせい}も子育て^{こそだ}にかかわることがふえてきました。料理^{りょうり}を作^{つく}ったり、子どもを
保育園^{ほいくえん}や学校^{がっこう}に送り迎え^{おくむか}したりする父親^{ちち}もいます。家族^{かぞく}の中で、男^{おとこ}と女^{おんな}の役割^{やくわり}を分けるの
ではなく、できることを分け合う考え方が広^{ひろ}がってきているのです。

これは、とても大きな変化^{へんか}だと思います。昔^{むかし}の日本^{にほん}では、男性^{だんせい}が家^{いえ}のことをするのは少な
かったからです。

このように、今の日本^{いまにほん}の家族^{かぞく}は、人数^{にんずう}だけでなく、生活^{せいかつ}のしかたや考え方も変わ^かってきま
した。

■田舎^{いなか}の家族^{かぞく}と都会^{とかい}の家族^{かぞく}のちがい

日本^{にほん}には、田舎^{いなか}と都会^{とかい}があります。田舎^{いなか}は、山^{やま}や畑^{はたけ}が多い場所^{おほ}で、人^{ひと}が少なく、自然^{しぜん}がた
くさんあります。都会^{とかい}は、ビルやお店が多く、人もたくさんいます。このふたつの場所^{ばしょ}で
は、家族^{かぞく}の生活^{せいかつ}のしかたにもちがいがあります。

田舎^{いなか}では、今^{いま}でも三世代^{さんせだい}の家族^{かぞく}がいっしょに住^すんでいることが多いです。おじいさんやお
ばあさんと、親^{おや}と子どもが同じ家^こで過^{すご}します。家が広^{ひろ}いことが多く、家族^{かぞく}みんなで暮^くら
すことができます。畑^{はたけ}の仕事^{しごと}をいっしょにしたり、ごはんを作^{つく}ったりする中で、家族^{かぞく}の絆^{きずな}
が強^{つよ}くなります。

また、田舎^{いなか}では、近所^{きんじょ}の人^{ひと}とのつながりも大切^{たいせつ}にされています。何か困^なったことがあれば、
となりの人^{ひと}がすぐに助^{たす}けてくれます。子どもが外^こで遊^{あそ}んでいるときも、まわりの大人^{おとな}が見
ていてくれます。家族^{かぞく}だけでなく、地域^{ちいき}の人^{ひと}たちも子どもを育て^{そだ}ているような感じです。

たとえば、学校^{がっこう}から帰^{かえ}るとき、近所^{きんじょ}の人^{ひと}に出会^{であ}うと「おかえり」と声^{こえ}をかけてもらえるこ
とがあります。だれがどこの家^{いえ}の子か、だれがどこに住^すんでいるかが、地域^{ちいき}の中で自然^{しぜん}
とわかっています。お互^{たが}いに顔^{かお}を知^しっていて、安心^{あんしん}できる。そんなあたたかい空^{くう}気が、田舎^{いなか}
にはあります。

いっぽう とうかい いなか ちが せいかつ み いえ やちん たか
一方、都会では、田舎とは違う生活スタイルが見られます。家はせまく、家賃も高いので、
家族の人数は少ないことが多いです。おじいさんやおばあさんといっしょに住む人は少なく、
親と子どもだけで生活している家庭が多いです。

また、都会では、近所の人とあまり話さないのが普通です。朝出会っても、「おはようご
ざいます」と軽くあいさつをするだけで、知らない人とは話さないという考えの人も多い
です。そのため、子育てや家のことも、家族だけでがんばらなければならない場面が多
くなります。

でも、都会には都会ならではのつながり方もあります。近所の人と親しくなくても、公園
や子育て支援センター、地域のイベントなどを通して、同じような立場の人と出会うこと
ができます。マンションや団地の中にも、小さなコミュニティがあることもあります。

近くに住んでいる人だけが「つながり」ではありません。自分に合った場所や人を見つけ
て、少しずつつながっていくことも、都会での子育てや生活を楽にする方法のひとつです。
今は、そんな新しい家族の支え方も広がってきています。
田舎と都会では、家族の生活のしかたや、人とのつながり方に大きなちがひがあります。
でも、どちらもそれぞれのよさがあり、自分たちに合った暮らし方を選ぶことが大切です。

■家族で過ごす時間の変化

むかし にっぽん かぞく す じかん いま おお ゆうはん
昔の日本では、家族みんなで過ごす時間が、今よりも多くありました。たとえば、夕飯は
家族全員がそろって食べるのがふつうでした。テレビを見ながら話をしたり、その日の出
来事を伝え合ったりすることも、よくありました。

しかし、今は生活のスタイルが変わってきています。仕事や学校で忙しいため、家族が同
じ時間に食事をするのが難しくなっています。父は帰りが遅く、母も仕事で忙しく、子
どもは学習塾やクラブ活動で家にいないこともあります。

このように、家族で食事をする時間が減り、ひとりで食べる「個食」というスタイルが増
えています。個食とは、家族の中でも、それぞれがちがう時間に食事をする事です。こ
れによって、会話の時間も少なくなってきました。

また、スマートフォンやタブレットなどの電子機器を使う時間がふえて、家族が同じ部屋
にいても、別々のことをしていることがあります。そのため、いっしょにいても話をしな
いということもあります。

しかし、今の時代でも、家族の時間を大切にしたいと考える人は多くいます。休日にいっ
しょに出かけたり、夜は少しだけでも会話をする時間をつくったりする家庭もあります。
短い時間でも、家族で過ごすことで、心が落ち着いたり、安心できたりします。

私^{わたし}の家^{いえ}では、子^こどもたちがゲームやスマートフォンを使^{つか}う時間^{じかん}に制限^{せいげん}をつけています。夜^{よる}はできるだけ会話をしたり、本^{ほん}を読^よんだりする時間^{じかん}にしています。はじめは子^こどもたちもいやがっていました。

でも今^{いま}では、「学校^{がっこう}でこんなことがあったよ」とか、「友だちと遊^{あそ}んで楽しかった」など、日常^{にちじょう}の小^{ちい}さな出来事^{できごと}を話^{はな}してくれるようになりました。また、ときどき「なぜ勉強^{べんきょう}しなきゃいけないの？」というような、考え^{かんが}させられる質問^{しつもん}もあります。

子^こどもとこうして話^{はな}す時間^{じかん}は、とても大切^{たいせつ}だと感じ^{かん}ています。話^{はな}を聞^きくことで、子^こどもの気持^{きもち}ちを知^しることができ、家^{かぞく}族^{すこ}のつながり^{つよ}がが少^{すこ}しづつ強^{つよ}くなっていくように思^{おも}います。生活^{せいかつ}は変^かわっても、「家^{かぞく}族^すと過^{かぞく}ぐす時間^{じかん}は大^{だい}事^じだ」と思^{おも}う気持^{きもち}ちは、今^{いま}も昔^{むかし}も同^{おな}じです。

■寂^{さび}しさやすれ違^{ちが}い

今^{いま}の日本^{にほん}では、家^{かぞく}族^すのかたち^かが変^なわる中^{なか}で、寂^{さび}しさやすれ違^{ちが}いを感じ^{かん}る人^{ひと}も多^{おほ}くなっていきます。たとえば、ひとり親^{おや}の家庭^{かてい}がふえてきました。ひとり親^{おや}とは、父^{ちち}または母^{はは}のどちらか^こと子^こどもだけで生活^{せいかつ}している家庭^{かてい}のことです。いろいろな理由^{りゆう}で、このような家^{かぞく}族^すも多^{おほ}くなってきています。

また、子^こどもが成^{せい}長^{ちやう}して大^{おとな}人^{ひと}になると、家^{いえ}を出^でてひとり生活^{せいかつ}する人^{ひと}も多^{おほ}くなります。そのため、おじいさんやおばあさんがひとり住^すんでいることも少^{すく}なくありません。まわり^{かぞく}に家^{かぞく}族^すがいないと、体^{からだ}が元^{げん}気^きでも、気持^{きもち}ちがさみしくなることがあります。

しごと^{しごと}や学^{がっこう}校^{いそが}で忙^{まい}しい毎^{まい}日^{にち}を過^すぎしていると、家^{かぞく}族^すどうしでも、話^{はな}す時間^{じかん}がなくなってしまう^{あさ}います。朝^{あさ}はバタバタして、夜^{よる}はつかれてすぐ寝^ねてしまう。そんな生活^{せいかつ}の中^{なか}で、「最近^{さいきん}、家^{かぞく}族^すとゆっくり話^{はな}してない」と気づ^きくこともあります。

また、家^{かぞく}族^すの中^{なか}で考^{かんが}え方^{かた}がちがって、気持^{きもち}ちがすれちがうこともあります。たとえば、親^{おや}は「子^こどもにがんばってほしい」と思^{おも}っていても、子^こどもは「もっ^こと自由^{じゆう}にさせてほしい」と感じ^{かん}ているかもしれません。お互^{たが}いに気持^{きもち}ちはあるのに、うま^{きもち}く伝^{つた}えられないことがあ^あるのです。

こ^このようなすれ違^{ちが}いや寂^{さび}しさは、ど^どの家^{かぞく}族^すにも起^おこることです。大切^{たいせつ}なのは、「話^{はな}すこと」をあきらめ^{あきらめ}ないこと^{すこ}です。少^{すこ}しだけでも、気持^{きもち}ちを伝^{つた}えることで、お互^{たが}いを理^り解^{かい}できるこ^こともあ^あります。

今^{いま}の時代^{じだい}だからこそ、家^{かぞく}族^すとの会^{かい}話^わや、ふれあ^{ふれあ}いの時間^{じかん}がもっ^{きもち}と大^{たい}切^{せつ}になっ^なっているのかも^しれませ^せん。

■家族は大切な存在

家族のかたちは変わってきました。でも、今も昔も、家族は大切な存在だと思っています。

たとえば、体の調子がわるいとき、だれかが「大丈夫？」と聞いてくれるだけで、心が落ち着きます。つかれて帰ったとき、「おかえり」と言ってくれる人がいると、ほっとします。そういう小さなことが、家族のつながりを感じさせてくれます。

今は、仕事や学校で家族と過ごす時間が少ないかもしれません。でも、少しの時間でも、いっしょにごはんを食べたり、会話をしたりすることは、とても意味のあることです。

また、遠くにはなれて暮らしていても、電話やメッセージで気持ちを伝えることができます。「元気？」という一言だけでも、家族の中にあったかい気持ちが生まれます。

家族の形は人によってちがいます。にぎやかな家族もあれば、ふたりだけの家族もあります。ひとりで生活している人にも、家族のように思える人がいるかもしれません。大切なのは、どんな形でも、思いやりを忘れないことです。

家族と過ごす時間の中で、助けてもらったこと、うれしかったこと、かなしかったこと、いろいろな思い出ができます。そして、その思い出は、これから先の人生に力をくれるものになると思います。

だからこそ、私は今も家族を大切にしたいと思っています。形はちがっても、気持ちは変わらない。それが、家族という存在だと感じています。

■これからの家族のかたち

今の日本では、家族のかたちが時代とともに変わり、いろいろなスタイルの家族がふえてきています。三世代で住む家族もあれば、親と子どもだけの家族、ひとりで生活する人もいます。結婚をしない人や、子供をもたない人も増えてきています。

でも、どんな家族であっても、大切なのは「思いやり」だと思っています。お互いに気持ちを伝えたり、困ったときに助け合ったりすることは、昔も今も変わらないものです。

私は、昔の家族と今の家族、どちらの生活も知っています。にぎやかで人が多い家族も、二人だけのしずかな家族も、それぞれにいいところがあります。大切なのは、どれが正しいかを決めることなく、自分たちに合ったかたちを見つけることだと思います。

これからの社会では、ひとりで暮らす人がもっと増えるかもしれません。でも、話を聞いてくれる人がいたり、「元気？」と気にかけてくれる人がいたりすれば、それもひとつの家族のかたちだと考えています。

私自身も、家族との時間を大切にしながら、子どもたちに「家族っていいな」と思ってもらえるような毎日を過ごしたいと思っています。いつか子どもたちが大人になったとき、自分たちのやり方で、新しい家族をつくってくれたらうれしいです。

これからの時代、家族の形はもっと自由になります。だからこそ、「つながりたい」という気持ちを忘れずにいたいです。どんなに時代が変わっても、人と人とのつながりが、心をあたたくしてくれと思っています。

「日本の家族」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

